

私には、ずっと伸ばしてきた大切な髪の毛があります。この髪の毛が誰かの役に立つかもしれないと知ったとき、私はびっくりすると同時に、なんだか心が温かくなりました。それが「ヘアドネーション」です。

ヘアドネーションとは、病気や事故で髪の毛を失ってしまった子どもたちのために、伸ばした髪の毛を寄付し、かつらを作る活動のことです。私がこのヘアドネーションを知ったきっかけは、「31センチの約束」という本を読んだことです。この本は、白血病で髪の毛を失ってしまった少女と、この子のためにできることを頑張る少女の、ヘアドネーションを通じた友情の物語です。

私はこの本を読んで感動したのはもちろん、私もヘアドネーションをしたいという気持ちになりました。ヘアドネーションには、三十一センチ以上の髪の毛が必要です。この長さになるまで伸ばすのは大変ですが、誰かの役に立てるように四年生の六月から髪の毛を伸ばし始めました。そして今年の六月、二年間かけて伸ばした三十一センチの髪を切り、寄付しました。「病気ですらい思っている人のために伸ばした髪が喜びを生んでくれるといいな。」そんな気持ちになって、達成感を味わいました。

ヘアドネーションの活動は、意外に身近なところで行われています。例えばライオンズクラブという団体です。ライオンズクラブは社会奉仕活動を目的とした国際的な団体で、様々な活動の一つとして、ヘアドネーションも行っています。ライオンズクラブは喜多方市にもあって、私の祖父も入っています。こんなに身近にヘアドネーションも行われているなんて、正直びっくりしました。

そんなヘアドネーションですが、実は一つ問題があるそうです。それは、五十センチ以上の長い髪の毛が足りていないことです。かつらを必要としている子どもたちの多くが、五十センチ以上のロングヴィッグを求めているようですが、十分に足りていないそうです。私がこのことを知ったのは、三十一センチのヘアドネーションをした後でした。だから、次は五十センチ以上のヘアドネーションに挑戦していきたいです。

日本には、病気や事故で髪の毛を失ってつらい思っている子どもがたくさんいます。幸いなことに私は健康で、今まで大きな病気をしたことがありません。だから、病気などで大変な思っている子のつらさや苦しさが分かりません。そんな私ができるのは、つらい思っている人たちに髪の毛を通して寄り添ってあげることだと思います。私たちには当たり前にある髪の毛ですが、決して当たり前ではない人たちもいるのです。

私の主張を聞いて、少しでもヘアドネーションに興味をもってもらえたらうれしいです。